

2018年9月4日

ジャカルタジャパンクラブ  
会員各位

ジャカルタジャパンクラブ  
海外邦人安全対策連絡協議会

### 安東総括公使冒頭挨拶

8月15日に着任した。これからよろしくお願ひしたい。進出日系企業も多く身が引き締まる思い。ご支援を得ながら、ジャカルタ邦人の安全確保に力を尽くしていきたい。

### 最近の政治・治安情勢

(1) アジア大会期間中のテロはなかった。治安当局のセキュリティー対策は成功したと言える。外国人の犯罪被害についても、窃盗などの報告はあったが重大犯罪の報告はなかった。

(2) 治安当局の犯罪取締り政策は進んでおり、アジア大会で治安水準も上がった。治安改善に向けた取組は一時的には功を奏していると考えられる。他方、来月には IMF 世銀総会があり、その後来年の大統領選挙に向けて、社会情勢は流動的になる可能性がある。こうしたなか、5月のスラバヤでのテロ事件を受けて改正された反テロ法を追い風に、当局は引き続きテロ対策を強力に進めていくと思われる。

(3) 治安当局は、水族館の大きな水槽を見るように当地の治安情勢を見ている。概ね水槽の中の様子はよく見えているが、水槽の石や海藻の陰に小魚が隠れているように、隠れたところにもテロや犯罪の陰がある可能性があるため当局は細かく確認して取締りを行っている。当局の取締りの努力は見えるものの、重大なテロの可能性はまだあると考えられる。テロリストが外国人を標的にしているとの話は聞かないが、これまで通り引き続き注意していただきたい。

### 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 8月7日にプラザ・スナヤンで置き引きの被害にあった報告があった。ショッピングモールでの置き引きに関する報告はいくつか来ているので、引き続き注意をお願いしたい。

(2) アジア大会期間中にバスケットボールの日本代表選手が買春行為をした事案について、実際のところ、報道にあったブロック M エリア以外にもカラオケやクラブはジャカルタにいくつかある。法律上では、客としてそのような店に行った場合の規定はないが、ジャカルタ特別州の条例では拘留・罰則規定がある。このような店では、麻薬等の取引が行われていることもあり、犯罪・トラブルに巻き込まれる可能性が高い。違法な店には近づかないようお願いしたい。なお、報道にあったブロック M は、日本料理店も多い。ブロック M というエリア自体は問題ないが、右のような店が多い点、ご留意いただきたい。

#### (領事部から補足)

(1) アジア大会期間中、ジャカルタ及びパレンバンで日本人が巻き込まれた事件はなく、パスポートの紛失事案が数件報告されたのみであった。

(2) 以前からたびたびの登録をお願いしていたところ先日インドネシア国鉄 (KA) のスディルマン・

バル（BNI City）駅長から当館 Facebook コメント欄宛てに『空港―スディルマン・バル間の路線上で、日本人の貴重品を拾得した。もし大使館からご本人に連絡が付くようであれば、自分（駅長）の携帯までご連絡の上、受け取りに来ていただきたい』との連絡があり、領事部がたびレジを検索したところ、同人（アジア大会関係者）のご登録があり、試合観戦中のご本人と連絡をとることができた。たびレジの登録によって、紛失者と連絡をとることができ、非常にほっとした出来事だった。各位におかれては、引き続き出張者等にたびレジの登録を推進していただくと共に、ご自身も当館管轄外に出られるときはたびレジの登録をお願いしたい。

（3）また、ケンドー・コバヤシ氏のたびレジ登録キャンペーンでは、登録者が50万人に達し無事大使に昇格することができたので、ご報告申し上げます。

（4）アジア大会パラリンピック期間の偶数・奇数制度の延長に関する報道が出ている。領事部としては引き続き確認の上情報共有をしていきたい。

### 最近の医療事情等

（1）現在南半球のオーストラリアは冬で、季節性インフルエンザが流行している。インターナショナルスクールの生徒などを中心にインフルエンザが発生する可能性が高いので、注意していただきたい。

（2）アジア大会のため2、000人ほどの邦人が当地を訪れたが帰国後に麻疹を発症する可能性がある。麻疹の発症率はインドネシアからの帰国者が一番多いということもあり、特に20代・30代の方には麻疹・風疹・水疱瘡の追加予防接種をおすすめする。また、妊娠可能な年齢の女性で風疹抗体が少なく、万が一妊娠中に風疹を発症した場合、胎児に影響を及ぼす恐れがある。抗体検査を受けていただくことをおすすめする。

### 参加者からの報告

1）ロンボク支援について、IPMG（International Pharmaceutical Manufacturer Group）という医薬品メーカーの団体に所属しており、抗生物質の支援を行うと共に、スタッフが実際にロンボクに行ったので右ご報告申し上げます。

2）社員からの報告として、高校入学のため4月に帰国した社員のご息子が8月に来尼。同月17日に帰国する際に空港のイミグレで止められ、KITASを持っていないとして別室へ連れて行かれた由。父である社員がKITASは8月に切れた旨説明したところ、特に問題なく帰してくれた由だが、イミグレにはまだ問題があると実感した。

3）東ジャカルタ、ブカシ、チカランの企業向けにイミグレ監査があるという情報がある。注意喚起が必要だと考えている。

4）ブカシ、チカランのカラワン地区でインドネシア人がバイクの盗難に遭ったとの報告を受けた。ひとりで帰宅しようとしていた由。24時間運営の工場の夜勤明け、深夜閉店後等の時間帯は集団で帰宅する、明るい時間帯に帰宅する等励行したい。

(大使館) 昨年は多くの邦人からひったくり被害に関する報告を受けていたが、その数は今年になってから激減している。アジア大会の治安管理体制強化によるものかも知れない。引き続き緊張感を持って生活していただきたい。

5) タクシーのぼったくりに関する報告を受けている。本来であれば10万ルピアくらいの距離のところを100万ルピア要求され支払った由。警察にも報告したが、特に捜査に動いてくれなかった。なお、タクシーの概観はブルーバードタクシーであり、そのタクシー使用しての被害だった。

ロンボク島地震の寄付金について8月末時点で計25社から600万円の寄付をいただいている。引き続き、寄付についてはご報告いただきたい。

#### (領事部から補足)

平成30年度版海外在留邦人数調査統計資料を配付している。インドネシアの在留邦人総計は19、717人。地域別に見ると西ジャワ州では大きな伸びが見られ、特にブカシでは前年比20パーセント以上の伸びが見られる。詳細はホームページに掲載しているので参考にしていきたい。

(以上)